

学校番号	展商 0 1		
学校名	<b>岐阜県立岐阜商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	後藤 有喜
学校情報	所在地：岐阜県岐阜市則武新屋敷 1 8 1 6 - 6 TEL：058-231-6161、FAX：058-233-3195、URL：http://www.kengisho.ed.jp/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用	<input checked="" type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動	<input checked="" type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input checked="" type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input checked="" type="radio"/> d) 著作権	<input type="radio"/> e) 種苗	<input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>専門学校間の連携を活かした商品開発をととした知的財産権の理解と創造性の育成</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展開型を採択している学校等の連携・交流会の実施、共同アイデア創出授業の実施</li> <li>・各種アイデア発想法の研究と実践</li> <li>・企業との協働によるスマホアプリ開発・企業における知的財産マネジメントの調査</li> <li>・韓国の商業高校との商品・ソフトウェア開発</li> </ul> <p>(取組の背景)</p> <p>本年度より本校では別組織による会社を設立し、商品を開発・販売することを学校活動の大きな目標に掲げている。また、韓国の商業高校と連携協定を結び、共同で商品開発やソフトウェア開発を目指している。これに伴い、他校との専門高校の特性を活かしたアイデアの発想や商品開発、実際に開発した商品の販売をととして知的財産権を学ぶ機会、企業による知的財産マネジメントを学ぶ機会が必要であると感じ、流通ビジネス科を中心に取組まれてきた本事業を学校全体に広げ、知的財産教育を基礎とした商業教育の展開が急務であると考えた。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>5月～・スマートフォンアプリ開発に関して企業と共同でアイデア創出を実施</p> <p>7月～・アイデア発想法の講義 (外部講師を招聘したビジネスプランや商品アイデアの発想法の講義) を教員の研修も兼ねて実施</p> <p>8月・大垣養老高校で行われた知財人材育成・知的財産教育実践交流研修会への参加</p> <p>9月・アイデア発想法の講義の成果として、生徒達が考えた商品アイデアについて企業から関係者を招いた公開プレゼンテーションを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔地と商品・ソフトウェア開発を行う上で S k y p e を利用した共同授業の実施</li> <li>可能性を探るため韓国ソニイル e ビジネス高校との交流授業を実施</li> </ul> <p>10月・韓国ソニイル e ビジネス高校の教師・生徒来校、新商品企画の発表・アイデア出しなどの共同授業を実施</p> <p>11月・宮城さんフェア・知財交流会への参加</p> <p>12月・韓国ソニイル e ビジネス高校を訪問、アイデア出しなどの共同授業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有田工業デザイン科より講師を招聘し、デザインについての実習を実施</li> <li>・全学科あげて県商工会議所青年部連合会主催「ビジネスプランコンテスト」に応募</li> </ul>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校との交流や連携、アイデア発想法の講義を通じて、知的財産を生み出すことができる創造性や探求心などを育てていないことに気付くことができた。</li> <li>・取り組みを通じて生徒のコミュニケーション能力や課題解決能力が向上した。</li> <li>・アイデア発想法の講義を教員研修も兼ねて実施、スキルアップとノウハウの蓄積ができた。</li> <li>・機動力のある組織的な実施体制を確立する必要がある。</li> </ul>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



スマートフォンアプリ開発の様子



アイデア発想法の講義の様子



公開プレゼンテーションの様子



Skypeを利用した共同授業の様子

### 韓国ソニル e ビジネス高校との共同アイデア創造授業の実施について

今年5月に本校と韓国ソニル e ビジネス高校との間で、商業教育における教育課程、文化、人的交流に関する協力のためのグローバルパートナーシップ協定が締結された、10月に訪日、12月の訪韓があり、共同授業が実施された。当初はアイデア出しなどのグループワークにおいて言語の壁や文化の違いなどが障壁になると考えられていたが、アイデアを出し合ってまとめ上げるという明確な目標が定められている中で、工夫してお互いの意志を伝え合い、スムーズにコミュニケーションをとり、課題をこなすことができた。わずか半年ほどであるが、アイデア発想法の講義や知財交流研修会などを通じてコミュニケーション能力や課題解決能力が身に付き、初対面で言語や文化の壁があってもチームビルディングができる力が育って来ていることがうかがわれた。今後、共同での商品開発など本格的に進めていきたい。



ソニル e ビジネス高校での共同授業の様子

学校番号	展商02	平成26年度 実践事例報告書様式4	
学校名	<b>指宿市立指宿商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	江口 和喜代
学校情報	所在地：鹿児島県指宿市岩本 2747 番地 TEL：0993-25-2204、FAX：0993-25-4527、URL：http://www12.synapse.ne.jp/ibusyo		

ねらい (○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a) 知財の重要性	<input type="checkbox"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="checkbox"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a) 特許・実用	<input checked="" type="checkbox"/> b) 意匠	<input checked="" type="checkbox"/> c) 商標
	<input checked="" type="checkbox"/> d) 地域との連携活動	<input checked="" type="checkbox"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input type="checkbox"/> f) 学校組織・運営体制
	<input type="checkbox"/> a) 特許・実用	<input checked="" type="checkbox"/> b) 意匠	<input type="checkbox"/> c) 商標
	<input checked="" type="checkbox"/> d) 著作権	<input type="checkbox"/> e) 種苗	<input type="checkbox"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>地域社会と連携したビジネス教育による知的財産権学習の実践</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標) 地域ニーズを把握する農・水産・商工団体等と連携して、生徒による課題の探索、探索された課題を解決する考案・発明・創作等を促し、知財を活用した課題解決を体験できる取組を展開する。こうした取組の中から地域発の商品やサービスの展開に繋げ、「オリジナル商品開発」や「デザインパテントコンテスト」等の取組による知的財産権・産業財産権取得等に展開していく。</p> <p>(取組の背景) 本校のビジネス教育は、体験や実学を伴いながら、企業や社会と提携し実践的な取り組みを推進してきた。これら「ビジネス教育の実践」は、今後次の大きな柱を中心に、伝統的に培われてきた内容(事業)を推進していく計画である。</p> <p><b>流通ビジネス</b>[指商デパート、販売実習、中国語・韓国語の活用]・<b>観光ビジネス</b>[ICP活動、JR九州との連携、観光協会や観光課との連携、フリーマガジンの作成、中国語・韓国語の活用]・<b>食ビジネス</b>[指商レストランの運営、農産物の流通・加工・貯蓄、JAや商工水産課との連携]</p> <p>よって、各教科や実施してきた内容を上記の大きな柱別に分類し、体系的、系統的な形で専門分野を進めていく。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>◎「株式会社指商」事業部企画・販売実習</p> <p>○アイデアコンテスト・指宿PR活動報告会 地域活性化につながる企画立案。プレゼン会を実施。「株式会社指商」の事業計画に活用。</p> <p>○「株式会社指商」のぼり・ミニ横断幕デザインコンテスト のぼり・ミニ横断幕のデザインを企画立案、コンテスト実施。</p> <p>○指宿地域活性化オリジナル商品開発 地元特産品を使った商品開発、お土産として販売を計画。指宿お土産プロジェクト事業部を組織。そら豆スイーツを集め、パッケージングしたお土産「いぶすきそら豆スイーツ」を開発。</p> <p>○株式会社山形屋(百貨店)より依頼を受けての販売実習 指商開発商品や地域特産品等の販売実習を、企画立案、仕入・販売計画の作成。事前講習会にて講義と実践練習を実施。指宿の特産品5品目を2日間延べ62名の生徒が参加して販売実習を実施。</p> <p>○第25回指商デパート 生徒が取引企業と話し合い、仕入から販売・決算までをおこなう本校のキャリア教育の集大成。第25回を記念して、大抽選会やご当地キャラクターとの記念撮影・握手会を実施。今回もレストランを営業。</p> <p>○薩摩今和泉駅観光看板作成 薩摩今和泉駅の看板作成依頼を受け、デザインを募集。担当者による選考会、美術部に依頼し看板制作。薩摩今和泉駅に設置予定。</p>

	<p><b>◎そらまMENプロジェクト2014</b>  そらまMEN開発者谷門理香氏とそらまMENストラップ製造・販売のコピオン様の協力を得て、そらまMENオリジナル商品を開発。知的財産権を踏まえ、制作や契約等について学習・実践。</p> <p>○そらまMEN2014 プロジェクト開発商品契約  開発商品のロイヤルティー付物品売買取引契約・商品化許諾契約を締結。</p> <p>○そらまMEN2014 プロジェクト開発商品指商デパート販売  そらまMEN2014 プロジェクト開発商品を指商デパートにて販売。</p> <p><b>◎ICP（指宿・茶いっぺ・プロジェクト）活動</b>  指宿活性化のため、鹿児島県の「おもてなし」の心「茶いっぺ」の精神で、観光客へ指宿の良さを発信。</p> <p>○お茶の入れ方講習会  専門家から作法や茶の淹れ方等、本格的なおもてなしの研修。「知覧茶」の知的財産権の学習。</p> <p>○ICP 花いっぱい運動への参加  ICP活動の一環として、花いっぱい運動に参加し、菜の花の苗植えを実施。</p> <p>○ICP 指宿枕崎線開通80周年記念イベントへの参加  ICP活動と地域貢献活動の一環として、山川高校等と連携して、おもてなし活動を実施。</p> <p><b>◎フリーマガジン『IBUSHOW』 vol. 4</b>  知的財産教育と開発商品・指商デパートの広報、指宿の地域活性化のための情報発信として活動。</p> <p>○フリーマガジン『IBUSHOW』 vol. 4 制作講習会、取材・制作活動  講習会を実施。夏休み期間を利用して取材・記事起こしなどについての講義。「歴」をテーマに取材。</p> <p>○フリーマガジン『IBUSHOW』 vol. 4 営業講習会、営業活動  営業講習会を実施。編集の仕方・協賛企業（広告）の開拓などについての講義。営業活動を実施。</p> <p><b>◎ファミマ選手権向け商品企画・開発</b>  「指商デパート」に向けて、オリジナル商品を企画・開発。</p> <p>○ファミマオリジナル商品開発に向けての商談会  試作品をもとに、味や製法・価格等の検討を実施。パッケージデザインは、再検討。</p> <p>○ファミマ開発商品パッケージデザイン検討会  キャラクターについてはオリジナルのキャラクターを制作し提案。</p>
<p><b>成果</b>  ・まとめ  ・気づき  ・反省  ・課題</p>	<p>本校では、商業教育の各科目の中で知財教育を実践している。「地域活性化」をキーワードに、本校独自の特色ある取り組みを展開している。今年度は、「株式会社指商」の設立3年目にあたり、これまでの本校での活動をさらに発展させた取り組みを行った。「地域活性化アイデアコンテスト」、鹿児島山形屋での販売実習、「株式会社指商」のぼり・ミニ横断幕デザインコンテストや「いぶすき観光サミット2014」・「そらまMENプロジェクト2014」によるそらまMENオリジナル商品開発など知財教育も各科目を指導する担当で積極的に取り組まれている。指宿市・指宿市観光協会・地元企業などと連携することで、指宿地域活性化オリジナル商品「いぶすきそら豆スイーツ」を開発するなど横への広がりも出てきており、地域活性化に貢献できたという手応えを感じている。また、フリーマガジン「IBUSHOW」は第4弾を発行することができた。昨年よりもより生徒の手による、取材から記事の編集・広告募集までを行い、成果を上げることができた。「そらまMENプロジェクト2014」によるそらまMENオリジナル開発商品の契約において、ロイヤルティー契約が締結できたことは、知的財産教育における大きな成果であり、昨年以上に知財教育に商業科だけでなく全職員が生徒と供に取り組み、知財教育の大切さが浸透しており、理解も深まっている。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

学校番号	商 0 1		
学校名	<b>群馬県立前橋商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	諸星 尚紀 (他 7 名)
学校情報	所在地：群馬県前橋市南町 4 丁目 35-1 TEL：027-221-4486、FAX：027-243-2175、URL：http://www.maesho-hs.gsn.ed.jp/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>知識基盤社会が到来し、知的財産に関するより高度で正確な理解が求められる社会になってきた中で、時代のニーズに呼応できる人材の育成を目的とする。</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業財産権標準テキストを活用し、知的財産権の理解と知識を深めさせる。</li> <li>商標登録、特許等の出願を念頭におき、創造力と実践力および活用力を身に付けさせる。</li> <li>グループ学習を通し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付けさせる。</li> <li>地元企業との連携した新商品開発を通して、知的財産権を意識させ、起業家精神を育む。</li> </ul> <p>(取組の背景)</p> <p>起業実践 (学校設定科目) がビジネス総合科 5 クラスでの展開となり、今年度で 6 年目となった。昨年度も新商品開発に知的財産に関する教育を取り入れてきたが、非常に効果的であったと感じている。今年度も、これまでどおり知的財産教育を継続して取り入れることにより授業の幅を広げるとともに、より一層内容の充実を図っていきたいと考えた。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>○ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで取り組んできた内容を伝え、知的財産の存在を知る。</li> </ul> <p>○KJ法・ブレインストーミングの実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ学習により生徒同士のコミュニケーションを取らせ、今後の授業展開を円滑にするために行った。</li> <li>プレゼンテーション能力を身につけさせるために、模造紙を使用した発表とプレゼンテーションソフトを用いた発表を行った。</li> </ul> <p>○講義と実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本校の卒業生が開発した「爽ふるん」に類似した商品が発売されていることを例にとり、知的財産権の重要性を身近に感じさせ学ばせることができた。知的財産権について大変興味を持って取り組んでいた。</li> <li>産業財産権標準テキストについては総合編と商標編を使用した。</li> <li>知的財産に関して、テキスト等では補いきれない今起きている状況をテレビ番組や無料動画サイト等を利用し補足した。</li> </ul> <p>○商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業 (ローソン) の方に来ていただき、商品開発の説明をしていただいた。</li> <li>企業と協力して、新商品開発を行い、商品名やパッケージ選考について知的財産権の実情にふれることができたことは大きな収穫であった。</li> <li>クラス単位での新商品開発を行った。グループワークで新商品案の検討および試作を行い、販売促進の方法を考えさせた。その際に、意匠権や商標権について意識付けを行わせた。</li> </ul>

**成果**

- まとめ
- 気づき
- 反省
- 課題

起業実践（学校設定科目）について、より一層内容の充実を図る必要性を感じつつ日々試行錯誤しながらの授業展開であった。創造力や実践力・コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を育成することが本科目の目標であり、その手段として主に新商品開発を取り入れている。グループワークやプレゼンテーション・販売実習等、新商品開発の過程における様々な経験や知的財産権の学習は、進路先でもきっと役に立つものであると思う。この事業により、テキストやDVD資料を用いられたこと、知的財産講義やIPDL実習を行えたこと等は、知的財産の知識を深めるだけでなく、授業の幅を広げ生徒の様々な能力を高めるうえで非常に有効なものであったと思う。

毎週行った会議で各クラスの進度の調整をすることや、報告・相談をすることが授業を展開する上で大変役に立った。来年度に向けて指導体制を整えて、より充実したものにしたいと思う。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

生徒の考えたビジネスプランが一般のコンペティションで最終審査まで通過。  
当日は1,000名を超える聴衆の中でプレゼンテーションを行いました。

(7) 経 済 2014年(平成26年) 11月18日(火曜日)

## 17組のプラン 最終審査進出

起業家の発掘を目指す群馬インベシジョンアワード(GIA2014)の最終審査が17日発表された。最終審査のファイナルステージへ進出した17組が決まった。高校生や大学生、農業者、医師など様々な年代、職業からのビジネスプランが選出された。ファイナルステージは17日(火)午前10時から午後5時、ホテルグランドパレスで開かれ、最終プレゼンテーションを経て、最優秀の賞と各部門の入賞者が決まる。最終審査に進むのは、16日の2次審査を

起業家の発掘を目指す群馬インベシジョンアワード(GIA2014)の最終審査が17日発表された。最終審査のファイナルステージへ進出した17組が決まった。高校生や大学生、農業者、医師など様々な年代、職業からのビジネスプランが選出された。ファイナルステージは17日(火)午前10時から午後5時、ホテルグランドパレスで開かれ、最終プレゼンテーションを経て、最優秀の賞と各部門の入賞者が決まる。最終審査に進むのは、16日の2次審査を

群馬インベシジョンアワード

17組のプラン 最終審査進出

起業家の発掘を目指す群馬インベシジョンアワード(GIA2014)の最終審査が17日発表された。最終審査のファイナルステージへ進出した17組が決まった。高校生や大学生、農業者、医師など様々な年代、職業からのビジネスプランが選出された。ファイナルステージは17日(火)午前10時から午後5時、ホテルグランドパレスで開かれ、最終プレゼンテーションを経て、最優秀の賞と各部門の入賞者が決まる。最終審査に進むのは、16日の2次審査を

5年未満のスタートアップ部門3人、5年以上のインベシジョン部門3人。

消費財が過ぎた豆腐を利用したキノコ栽培や空き店舗の情報発信基地「オリオン座」など、独自の視点で練り上げたプランが評価された。応募が昨年の実行委員の腰高博(こたかひろ)さん(40)へ申し込

3件から2件に大幅に増えた高校生は優秀社長、島崎啓司(しまざきあきし)社長、風食料社長、上毛新聞社の渡辺幸男(わたなべゆきお)社長が審査する。

最終審査は、審査委員長の国領二郎(くにのりょう)大教授と2次審査を担当したGIA2014実行委員長の田中仁(たなかひとし)さん(40)と、記者、同社事務局のメンバーで氏名年齢住所を記載し、同社事務局へ申し込む。

シダカホールディングス社長、島崎啓司(しまざきあきし)社長、風食料社長、上毛新聞社の渡辺幸男(わたなべゆきお)社長が審査する。

最終審査は、審査委員長の国領二郎(くにのりょう)大教授と2次審査を担当したGIA2014実行委員長の田中仁(たなかひとし)さん(40)と、記者、同社事務局のメンバーで氏名年齢住所を記載し、同社事務局へ申し込む。

GIA2014ファイナリスト

(代表者)氏名	所属先	プラン・事業タイトル
■ビジネスプラン部門(高校生)		
坂井 徹輔	伊勢崎商業高校3年	高齢者のための通信制学習塾
芝崎 春花	利根実業高校	MOTTA INAI フルーツのリサイクル〜新感覚はるかのアイス巻きはいかがですか?〜
島 未祐	伊勢崎工業高校	「コミュニケーションヘルパー」で絆強く地域共生インベシジョン
豊崎 泰永	群馬県立高校	高山村「リンドウ」産地強化に向けて
帆足 郁美	大泉高校	商業豆蔵を利用したきのこ栽培
前橋商業高校3年8組有志1班	ハイテク / ロボット系2年	Piece & Peace 日本を元気に! 可動式店舗の全量展開
■ビジネスプラン部門(大学生)		
伊藤 浩士ほか2人	共栄学園前橋国際大学3年	シャッター街を再生させる若者文化発信基地「オリオン座」
佐藤 瑞穂	県立女子大学	セルフキッチンDanbe.
■ビジネスプラン部門(一般)		
小笠原 太郎	小淵警備保障	高齢者と家族の繋がりをICTでコーディネートする仕事 ~コネクトワークー~
木島 広	OOOapparei	「手芸版レシビサイト」倉庫に暮らす住地の在産が実益を広げる!
原田 文字	日高病院内科医師	森の手カラで街開し興興し 群馬県民総アンチエイジング計画 元気に長生きしよう!!
■スタートアップ部門		
石北 匡之	日本赤十字社青森県支部受託はまなす医療センター	世界最小・最軽量! 空気の方で動く人工呼吸器で群衆を救え!! (新しいAPL) 農業における6次産業化及びそばの専作経営
高井 雄基	赤城深山ファーム	多言語通訳支援サービス
藤沢 清美	C&T	
■インベシジョン部門		
高橋 毅	BMZ	歩きやすく・動きやすく・疲れにくい高機能インソールを広め、鞋もが歩行による健康を奪われる社会を無く
高橋 万太郎	伝統デザイン工房	職人醤油-全量の醤油を100mlサイズで統一-
堀切 真真	アドバンティック・レヒュース	非常事態経営〜幸福総和№1企業を創る〜



企業との連携



社会人講師



あったらいい文房具

学校番号	商 0 2		
学校名	<b>神奈川県立商工高等学校</b>	担当教員/ 教官名	本田 達也
学校情報	所在地：神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町 7 4 3 TEL：045-353-0918、FAX：045-353-1565		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>商品開発実習や他分野との連携、企業等外部組織との連携を通じた知的財産学習</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標) 商品開発実習や他分野との連携、企業等外部組織との連携を通して知的財産権の知識の定着を図る。</p> <p>(取組の背景) 商業と工業・農業分野との関わりを学習し、その中で知的財産権がどのように関わっているか考え、本校で浸透していない知的財産教育を生徒・教員ともに理解する必要があると判断し、本開発事業を申請した。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>(商工部) オリジナルの石鹼やオリジナルタンブラーの製作を行った。化学科・機械科と連携し、製品を作ることにより、工業製品のデザイン、意匠権等の知的財産権について学習することができた。また、地域企業と連携し、チョコレートのパッケージデザインについて考察するとともに、フェアトレード等についても学習した。</p> <p>(課題研究・農業関係) 農作物の作成から商品についてのブランド化、マーケティングを通じ広告デザイン等について考えさせた。</p> <p>(商業部) 地域の和菓子店と共同で和菓子の開発を行った。ごま餡を使用した「ごっちゃん」を制作し、商品開発やネーミングについて学んだ。</p> <p>(マーケティング) パテントコンテストへ参加することにより知的財産権を身近に感じる事ができた。</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>実践を通じ、机上の学習だけでは学びきれない知的財産権を実習や産業界との連携で生徒が身近に感じる事ができた。しかしながら校内の認知度や協力体制が固まっておらず、きちんと組織化し、整備する必要があると感じた。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



校舎写真



活動風景写真



ゴマ餡を使用

創作作品／開発商品写真



指導風景



オリジナルロゴの制作

### 商業の枠組みを超えた知的財産教育の取組みについて

#### 商業が様々な分野で関わっている知的財産教育

商業と工業・農業分野との関わりを学習し、その中で知的財産権がどのように関わっているか考えた。商業の枠組みにとらわれず、販売するもの、生み出すもの、様々なものに知的財産権が関係していた。商業・工業連携の部活動「商工部」ではオリジナル石鹸やオリジナルタンブラの制作を行った。製品を作ることにより、工業製品のデザイン、意匠権等の知的財産権について学ぶことができた。

課題研究「農業関係」においては農作物の製作とともに商品のブランド化・流通販売について考えた。パッケージやロゴ製作を通じ知的財産権について学習することができた。

これらの取り組みにより「もの」を生産する側に知的財産権が大きく関わっていることが学習できた。



(例) 取組の様子の写真

学校番号	商03	平成26年度 実践事例報告書様式4	
学校名	<b>石川県立大聖寺実業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	山田 浩司
学校情報	所在地：石川県加賀市熊坂町ヲ77 TEL：0761-72-0715、FAX：0761-72-8133、URL：http://www.ishikawa-c.ed.jp/~daisjh/		

ねらい (○印)	(a) 知財の重要性 (b) 法制度・出願 (c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	(d) 地域との連携活動 (e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
	(a) 特許・実用 (b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>地域企業と連携した商品開発などの商業活動を通して知的財産権を活用・取得する</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標) 知的財産を踏まえつつ、ものづくりや商品開発等の場を通じて創造性や実践的な能力を身に付ける。 「商品開発」を通して、知的財産権についての知識、理解を深めることにより、生徒の創造性の育成に努める。</p> <p>(取組の背景) 知的財産権の内容において、少しは知識がある生徒が対象である。しかし、生徒、教員とも具体的な事柄や実務的な内容については、ほとんど知識がなく今年度は生徒と一緒に学習することを目標とした。過去、お菓子の商品開発については前例があったが、継続される商品の開発まで至っていない。商品開発(ものづくり)をとおして、生徒の創造力、実践力、活用力の育成を目的として指導した。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>5月 1年生を対象に弁理士による知的財産権講話(講演会)の実施</p> <p>9月 1年生を対象に地元企業4社について企業における知的財産の状況について学習する目的で企業見学</p> <p>4月～11月 「商品開発」として、企業と連携し、特産品「加賀棒茶」を使ったお菓子づくりの実施。 「商品開発」として、「鉛筆」のデザインの考案。</p> <p>8月 デザインした「鉛筆」についてデザインパテントコンテストに応募</p> <p>9月 加賀棒茶を使ったお菓子について文化祭にて試食会を実施</p> <p>11月 石川県産業フェアにて商品開発したお菓子の試食、販売実習の実施</p> <p>2月 石川県商業生徒発表会にて商品開発に関する成果発表</p> <p>9月～ 「工業技術基礎」「情報技術基礎」「マーケティング」「商品開発」の授業において「知的財産管理技能3級」取得を意識した授業を実施</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>商品開発を実施するにあたって、郊外活動を多く取り入れた。地元産業の方々から助言指導を受け体験型・課題(問題)解決学習をすることができよかったと感じている。知財学習をとおして生徒の学習意欲の向上や創意工夫がみられた。商品開発では、導入段階で弁理士の方を積極的に招聘し、特許電子図書館(IPDL)での検索方法や知的財産権の取得について講演会等を実施すればより効果が得られたと感じる。現状では、開発した商品の本格販売まで達成することができない。いくつかのハードルをクリアしながら今後より本格的な販売実習などの体験学習を実現したい。「知的財産管理技能3級」の受験に関しては、当初は授業選択者全員を受験させるつもりであったが、シラバスとの兼ね合いなどの面から今年度は希望者受験とした。</p> <p>企業見学や講演会についても、企業側からの説明もあり、生徒達にとっても理解しやすいものであった。また、中間報告会等の機会をとおして、先進校の先生方とのつながりが大きな成果の一つである。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



弁理士による講演会



知財についての企業訪問



小学校での実演授業



県産業フェアでの販売実習



商品開発での地元企業との打ち合わせ



商品開発での地元企業との打ち合わせ



3Dプリンタを活用した試作品の作成

## == 商品開発の取り組み ==

特に商品開発については、学習成果が現れたと感じている。2つの商品について開発を行った。1つは地元特産の「加賀棒茶」を使用したお菓子（和風シュークリーム）の開発である。お菓子づくりにおいては過去2度商品開発を実施した実績がある。しかしながら、過去の商品については単年度のみの開発、販売であり継続性がなかった。継続して製作可能な商品をイメージしながら開発を行うことができた。

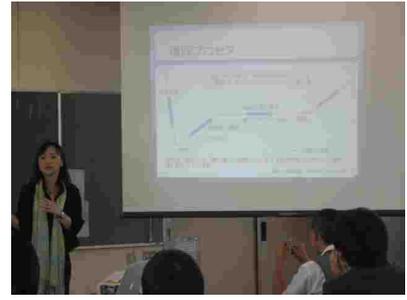
また、鉛筆の製作においては、明治初期に加賀市に良質な黒鉛が発見され、高品質な鉛筆を製造する工場があった。その製品が明治16年のアムステルダム万国博覧会にて第一級第一等賞を獲得したという歴史を学び鉛筆のデザインに取り組むこととなった。情報ビジネス科の生徒は図面を描くスキルや鉛筆の作り方もわからない状態でのスタートとなった。地元の短期大学や地元木工職人の協力を得て試作品の完成にまでたどり着くことができた。そのデザインをデザインパテントコンテストに応募することもできた。当初、同コンテストに応募する予定はなかったが、この事業を通じた横のつながりからコンテストについての知識をいただき応募できたことは本当にうれしく感じられる。

学校番号	商04	平成26年度 実践事例報告書様式4	
学校名	<b>福井県立福井商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	伊東 輝晃
学校情報	所在地：福井県福井市乾徳4-8-19 TEL：0776-204-5180、FAX：0776-24-5181、URL：http://www.fukusho-ch.ed.jp		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性   b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	a) 特許・実用   b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標   d) 著作権   e) 種苗   f) その他 (   )

タイトル 目的・目標要約	<b>プライベートブランドと地域団体商標を学ぶ</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標)</p> <p>知的財産権に関して、地元企業や各種団体が課題にどう取り組んでいるかを講演等から学ぶ。企業訪問やフィールドワークを通して、助言指導を受けながら課題解決策を探っていく。生徒自らの気づきを掘り起こして、知的好奇心をより強く喚起する知財教育を目指す。</p> <p>(取組の背景)</p> <p>県産業支援センターや提携企業の助言指導を受けて、校外での学習活動に取り組む。体験型課題解決学習を通じて、商業教育がより深化できるよう努めていく。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商業科目に関わる知財活用の実例を教材とするとともに、発想を豊かにする学習を取り入れて、生徒が自ら創意工夫できる下地をつくる。</li> <li>・ 行政・産業界や学識経験者から本校の取組みへの助言指導を受けたり、知財に関する教員研修を行ったりして、授業改善に努める。</li> <li>・ 地元企業と提携して商品開発等を行い、校外での販売実習も行う。 マーケティング手法を取り入れて販売実績を分析し、開発商品の改良を図る。</li> <li>・ 先進的な取組みをしている他校へ訪問・聴取・調査を行い、適宜情報交換を進める。</li> </ul>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商品開発については、企画提案から試作品制作依頼にとどまらず、販促グッズ制作や販売実習まで拡げることができた。一定期間かけて複数回の販売実習を行うことができ、販売状況を提携企業とともに分析して、マーケティング手法を取り入れた工夫改善に取り組む活動ができた。これまでの開発商品のバージョンアップやパッケージ改良などにも取り組み、より実践的な知財学習を行った。</li> <li>・ 開発商品の商談会参加や商業高校フードグランプリコンテストへの出品など、校外での学習内容をパネルにまとめて展示発表を数回行った。また、福井県立大学のゼミナール発表会に参加して、論理の組み立て方も学習できた。</li> <li>・ 校外学習では多方面から励ましの声や意見を聞くことができ、生徒の学習意欲や関心は大いに高まっていった。気づいた課題を解決しようと生徒自らが創意工夫したり協議したりするようになり、自発的に学びを深めることができた。</li> <li>・ 地域団体商標やプライベートブランドを参考に、開発した本校応援キャラクター「ACEくん」を活用した販促活動を継続して行い、手応えを十分感じることができた。こうした活動を通して、課題解決型体験学習のシンボルとしてキャラクターイメージが定着してきた。さらに、食料品以外の商品開発や知財の権利化にも対応できるよう、より進んだデザイン学習ができるよう授業改善を図りたい。</li> </ul>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



オリジナルパンの校内販売実習を製パン業者の助言指導を受けて行った講演会「東北復興の現状」



「福よかそば」第2弾を、商談会を経て試食販売や館内告知を行った。

ACEくんの羽根からペンダントデザインを考え、山梨県立甲府工業高校の制作協力を得て完成した。地元宝飾販売店で展示会を行った。



「福井の知名度UPセット」の夏休み限定ネット販売の取組について

法政大学の調査では、衣食住などの経済指標から福井県は幸福度ランキング全国第1位の都道府県と認定されている。一方、福井県がどこにあるか日本地図で正しく示すことができない小学生の割合が全国で最も高く、知名度最下位と位置づけられている。昨年度の県ブランド営業課職員による講演での指摘を受け、本校生徒が知名度向上策を検討してきた。今夏、3年生の商業科目「課題研究」2単位の「商品開発」講座において、これまでの開発商品を組み合わせて「福井の知名度UPセット」として8月限定のネット販売に取り組んだ。提携企業先での製造・梱包や販売実習、ふくい産業支援センターの指導を受けたWebページ制作などを経て、キックオフを開いて地元新聞やTVニュースに取り上げていただいた。産官学民連携の下、地域ブランドの発信を兼ねて、課題解決型の知財学習を実践的に行うことができた。



学校番号	商 0 5		
学校名	<b>甲府市立甲府商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	秋山 盛富
学校情報	所在地：山梨県甲府市上今井町 300 TEL：055-241-7511、FAX：055-241-7512、URL：http://www.kchs.city.kofu.yamanashi.jp/		

ねらい (○印)	(a) 知財の重要性 (b) 法制度・出願 (c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 (e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	(a) 特許・実用 (b) 意匠 (c) 商標 (d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>商業高校における知財学習の継続と在り方について</b>
目的・ 目標 ・背景	(目的・目標) 本校は平成 22 年度から本事業に参加させていただいております。これまでは外部講師を活用した講演会の実施と部活動で知財教育について取り組んできました。平成 25 年度からは課題研究 (知的財産権学習パート) や学校設定科目「商品開発」において、通年で知財を扱う授業が新たに実施できることとなりました。これらを踏まえ、平成 26 年度は本校における知財教育の継続と在り方について考えることを目的・目標としました。
活動の 経過 (知財と の関連)	<u>授業における活動 (商品開発・課題研究)</u> 1. 産業財産権標準テキストを使って産業財産権について理解させる。 2. 東京税関、日本科学未来館、特許庁を見学させて、知的財産 (権) について知識を深めながら知的財産について、学ぼうとする意欲や創造しようとする意欲を高めさせる。 3. 意匠 (権) について学習を深めさせるため、デザインパテントコンテストに応募させる。 4. 商品開発の手順について理解させる。(アンケート調査の企画・実施) 5. 卵保護材の試作をとおして創造力を高める。※課題研究選択生徒のみ <u>部活動における活動 (マーケティング部)</u> 1. 知財教育の紹介のために、成果展示発表会でこれまでの成果を発表させる。 2. これまでの成果物を使って学校外部と交流を行う。
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	昨年度から 2 名で授業を担当するようになりました。本年度、もう 1 名の教員が授業を実施した際に、著作権の部分で「こういう扱い方もあるのか」と気づくことができました。やはり 1 人だけでなく、多人数で事業を展開していった方が成果が大きいと感じました。 なかなか大きな成果を出すことができませんが、授業選択者の中で、デザインパテントコンテストへ応募できた割合が昨年度よりも向上したり、知財見学会として 2 年連続東京税関様や特許庁様を訪問させて頂くことができたり、継続することができつつあります。 卵保護材の試作では、本当に生徒が真剣に取り組んだり、成功や失敗といった結果を受けた生徒の表情を見ると、授業の計画や準備、実施をしてよかったと思います。成果展示発表会にも参加させて頂き、座学で知識を伝達することも大事なのですが、生徒が主体的に活動するいきいきとした姿を見ると、本事業を実施してよかったと思います。本校で知財を学んだ生徒が社会でどのように活躍していくかは、まだわかりませんが、本事業の名称である知的財産に関する創造力や実践力や活用力は今後社会で益々求められる能力であると考えます。社会の要請にこたえることができるのも知財教育の強みである感じました。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

生徒にとって身近な現物は効果があります。



身近にある教材（クリップ）

知的財産見学会の様子！



東京税関を訪問

特許庁にて検索実習

スピーカー調査！！

商品説明  
スピーカー付き携帯置き

9つの質問に答えてください。  
・ 学年 \_\_\_\_\_ 男 or 女

・ スマートフォンを持っていますか？ YES or NO

・ スピーカーが欲しいと思ったことはありますか？ YES or NO

《下記商品について》  
・ 4つの商品でどの商品が欲しいですか？ 1, 2, 3, 4

・ 選んだ理由は何ですか？ \_\_\_\_\_

・ 大きさはどのくらいが良いですか？  
例 持ち運び可能な大きさ、何センチ位など \_\_\_\_\_

・ 何色が良いですか？ \_\_\_\_\_

・ 4つ以外だったらどのような形状、デザインが良いですか？ \_\_\_\_\_

・ この商品があったら欲しいですか？ YES or NO

1 2 3 4

スピーカーが携帯置きから生えている状態  
スピーカーがたたくさんつい  
ミッキーの顔と足で  
握み手がスピーカー  
感磁で携帯を支え  
信号機がスピーカー  
になっている

「商品開発」の授業で、本校生徒を対象に商品の企画・アンケートの実施を行いました。（創造力）

卵保護材を試作し、4作品中目的を達成できたのは1作品でした。



新商品開発のためのアンケートの作成と実施

卵保護材の試作

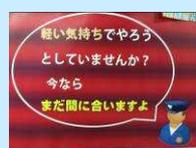
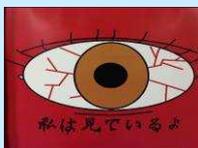
部活動（マーケティング部）における取組について

昨年度に引き続き、成果展示発表会に参加させて頂くことができました。部活動で今年度までに取り組んできた、農業高校で山梨県の特産品であるぶどうジュースを試作したこと、本校オリジナル商品で現在も定期的に販売している「甲商まんじゅう」を開発したこと、意匠・商標・著作権の学習の一環としてご当地かるたを開発したことを説明し、成果物も展示しました。また、これらに加えて今年度実施した、ぶどうプリンを試作、「自転車の盗難を防ぎたい」という身近な課題解決のための学習の取組を成果物とともに展示しました。さらに、学園祭である学級が有名キャラクターと本校がコラボしたタオルとストラップを作成し、それらの展示も行いました。

実際に参加した生徒は「来年も参加したい」という感想を持っており、担当者としても来年度に向けて、新たなことに挑戦していきたいと考えています。全国の取組を知ったことで普段の生徒の学習への取り組み方も変化し、学習の面においても成果をあげています。



成果展示発表会の様子



防犯用ステッカーを作成し配布！

学校番号	商06	平成26年度 実践事例報告書 様式4	
学校名	<b>静岡県富士市立高等学校</b>	担当教員/ 教官名	新明 正樹
学校情報	所在地：静岡県富士市比奈1654 TEL：0545-34-1024、FAX：0545-38-3223、URL：http://www.fuji-ichiritsu.jp		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性   b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	a) 特許・実用   b) 意匠   c) <input checked="" type="radio"/> 商標   d) <input checked="" type="radio"/> 著作権   e) 種苗   f) その他 (   )

タイトル 目的・目標要約	<b>地元食材 橙(だいだい)を活用した商品開発</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標) ビジネス部の商品開発力を活かした、地域連携ならびに他学科との協同</p> <p>(取組の背景) 商品開発のプロセスを学び、新商品の活用に全学科で取り組む</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>17歳が考える美容と健康 その名も「押忍(おす) 本気(マジ) ッス！」 いろいろなものと組み合わせるとおいしく楽しく飲める新感覚飲料。</p> <p>地元富士市で昔から生産されている橙は、天然クエン酸がたっぷり。名前こそ知られているもののその味・香りを知っている人はほとんどいません。</p> <p>吉商本舗ではこの地元特産品を世の中に宣伝することを使命とし、これまでに、ぽんず、飴、アイス、麺つゆなどの商品開発、販売をしてきました。その香りは気分高揚効果が認められています。今回は化学的にも一歩踏み込み、いま注目されている希少糖を使い、健康に目を向けた商品を考えました。</p> <p>①橙果汁 富士市のエコファーマーが育てた橙を、まだ実が青い11月に搾汁。橙の香り・天然クエン酸の酸味が引き立ちます。</p> <p>②希少糖レアシュガースウィート 今注目されている希少糖。体脂肪を低減、砂糖の消化吸収を穏やかにします。コクのあるスッキリとした甘味です。</p> <p>③富士山伏流水 祝世界文化遺産登録、やっぱり富士市ですから。地下300mから汲み上げた富士山の伏流水を使用。ミネラル豊富です。</p> <p>④DHC赤沢海洋深層水 静岡県伊東沖で日本最深の800mから採水、年代測定で1000年前の海水とされるあのDHCの海洋深層水を使用。</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>全国産業教育フェアに出品</p> <p>地元のスーパー(アピタ)にて、専門の販売コーナーを設置した。</p> <p>全国各地の高等学校より、商品の委託販売の申込をいただいた。</p> <p>他学科との協同で、商品の活用法について検討できた。</p> <p>まだ未発見の地元で埋もれる一品を求めて、更なる実践につなげたい。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

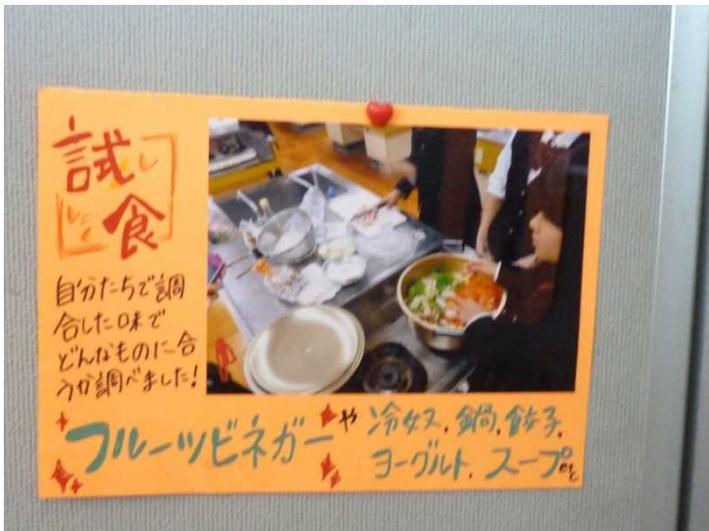
「押忍（おす） 本気(マジ)ッス！」と だいたい



酸味と香りが豊かな柑橘で  
お正月飾りのだいたい でも有名

静岡では特に東部地区で栽培が盛ん

これまでの果汁を使用した飴を商品化  
している。



ビジネス部を中心に試食会を重ね

全学科の生徒から寄せられた意見を元に、  
数種類のメニューを選出。



産業教育フェア（宮城大会）での交流

全国商業高等学校 校長会（静岡大会）に  
おいて研究発表をおこないました。

全国各地の高校より商品の委託販売の  
申し出をいただきました。

学校番号	商 0 7		
学校名	<b>愛知県立知立高等学校</b>	担当教員/ 教官名	山本 智彦
学校情報	所在地：愛知県知立市弘法 2 丁目 5 番地 8 TEL：0566-81-0319、FAX：0566-81-5297、URL：http://www.chiryu-h.aichi-c.ed.jp/		

ねらい (○印)	d) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) ) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>デザインパテントコンテストを通じて、創造力・プレゼンテーション能力を育成する</b>
目的・ 目標 ・背景	(目的・目標) 全学年でデザインパテントコンテスト応募に向けての取り組みをし、入賞を目指す  ----- (取組の背景) 一昨年、2年生で入賞者が1人出たことにより校内(教員・生徒)の知財教育に対する関心度が高まった。昨年は一昨年を上回る応募したが入賞者を出すことができなかった。
活動の 経過 (知財と の関連)	2年「マーケティング」(選択科目)3クラス70名の取り組みのみを紹介する (導入) ・1年生で全員がデザインパテントコンテストに応募している(グループでの取り組み) ・各班でペットボトルから商標・意匠を考える(ホワイトボードと赤・青の付せんを活用) (展開) ・各自「ゴーイングマイデザイン用紙」の作成(各班で内容の検討) ・A4用紙に「六面図」を作成→弁理士さんへ郵送→講評および優秀作品の選出 ・弁理士による検索実習よりも講評に生徒は興味を持つ(専門家からのコメントに一喜一憂) ・高校生が開発した商品から商標・意匠(デザイン)を考える 愛媛県新居浜商業高校プロデュース「白いもキャラもっち」を購入 (整理) ・デザインパテントコンテストへの応募 ・ロングセラー商品の研究
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	1年生で知財の概要を理解しデザインパテントコンテストへ応募した生徒たちが、再度2年生でデザインパテントコンテストへ応募することにより中身の濃い知財教育ができた。ホワイトボードと付せんは班活動の教材として大変効果があった。ペットボトルから商標・意匠を考える取り組みでは試飲まで行い、価格・デザイン・知名度・品質等まで検討させるべきであった。「白いもキャラもっち」の試食および商品・デザイン・パッケージの検討は大変盛り上がり中身が濃く刺激的な知財教育になった。 デザインパテントコンテストへの応募は昨年の量(69作品)から質(23作品)へ転換した。大切なのは弁理士さんとの連携であり、継続的・段階的な指導を受けることである。弁理士さん(専門家)の的確な指導・助言があればコンテスト入賞も夢ではない。  一昨年の入賞者1人に続き、今年は2人の入賞者を出すことができた。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

弁理士講演会（検索実習）



ペットボトルから商標・意匠を考える



ペットボトルの検討！長所は青、短所は赤に記入



コンテストに向けて六面図の作成風景



生徒に好評だった  
「白いもキャラもっち」の商品研究

学校番号	商 0 8		
学校名	<b>愛知県立南陽高等学校</b>	担当教員/ 教官名	柘植 政志 本宮 伸治
学校情報	所在地：愛知県名古屋市港区大西二丁目 99 番地 TEL：052-301-1973、FAX：052-302-6624、URL：http://www.nanyo-h.aichi-c.ed.jp/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input type="radio"/> a) 特許・実用	<input checked="" type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input type="radio"/> d) 地域との連携活動	<input checked="" type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input type="radio"/> d) 著作権	<input type="radio"/> e) 種苗	<input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>「南陽高校における知財学習」～総合・商業・部活動での知財学習定着へ向けた実践～</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標)</p> <p>一昨年、昨年と行ってきた取組を継続し、「総合的な学習の時間」における意匠権を活用した問題解決学習の授業の定着と、商業科の商品を開発する授業に、知財教育の手法を活用し、商標権についての学習を行う。</p> <p>(取組の背景)</p> <p>これまで行ってきた知財教育の取組を単年度で終わらせることなく、定着を図りたいと考えている。問題解決学習は昨年度に引き続き「総合的な学習の時間」において、進路指導部で研究をしている。平成 27 年度に実施される「商品開発」の授業に先駆けて、商業科目での知財教育の導入を実施したいと考えている。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p><b>1 学期</b></p> <p>2 年生の総合的な学習の時間では、大学教授による意匠権に関する講習会を行い、意匠デザインを考えさせ、クラス、学年の発表会を行った。</p> <p>授業では、商品発想法や商標について講義を受け、オリジナルブランド開発を行った。商品開発に関しては、環境配慮型商品にするため、カーボン・オフセットについて学習を行った。</p> <p><b>夏休みおよび 2、3 学期</b></p> <p>総合的な学習の時間で行った発表をもとに、意匠デザインをデザインパテントコンテストへ応募した。</p> <p>授業では、環境に配慮した商品とするために、カーボン・オフセットクレジットを創出している現場の見学会を実施し、開発した商品に対して自ら選んだカーボン・オフセットクレジットを購入し、二酸化炭素排出量ゼロの商品を企画した。また、新商品の試作や、モニタリング等を実施した。開発商品の商品名については、IPDL 検索を行うなど、商標権についての学習を深めている。</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>総合的な学習の時間に関しては、昨年度より内容が充実したものとなった。担任の授業の中で各教科の特色が意匠権の授業に現れていた。福祉科の教員であれば福祉機器関係を、家庭科の教員であれば、調理器具を元に授業を展開するなど、教員の学びに非常に高い効果があることが分かった。また、この意匠権を活用した新しいデザインを考える取組を通して、生徒も自分達に身近な問題を解決する能力を育成することが出来た。授業に関しては、昨年度まで取り組んできた環境配慮型商品開発を授業で実践するだけでなく、商品の発想法を学習し、新商品開発を行うことで、商標に関する学習を深めることができたと考える。今後もこの取組の定着へ向けて教員の協力体制の構築を行いたい。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



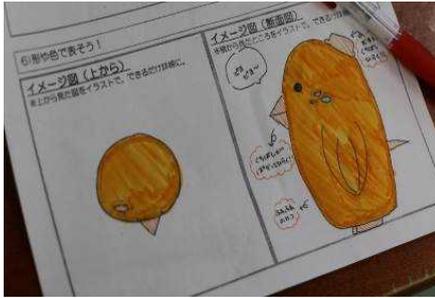
意匠権について外部講師による講演



意匠権についての授業



意匠の考案



生徒考案デザイン



意匠学年発表会

生徒間の情報共有や教員への周知に効果がありました。生徒や教員の中で発表会に向けて競争心も生まれました。



エッグドロップ



ブランドに関する授業



カーボン・オフセット証明書

商品発想法と知財教育について

卵を梱包した機体を落下させている様子

今回、昨年度まで行ってきた環境配慮型の商品開発を授業内で実施した。その際に心がけたのが、商品の発想法を学ぶということである。まず、紙タワーやエッグドロップなどの授業を行い、1枚の紙から工夫次第で様々なものが生まれることを実感させた。その後、思いつきではない、商品の発想法を学習させた。「マトリックス」や「エクステンション」、「トランスファー」など、企業で実際に使われている発想法のテンプレートを活用することで、生徒達の発想法を養うことが出来た。また、商標の力をさらに実感させるために、オリジナルブランドを考案させることにした。全ての開発商品に、同一のオリジナルブランドのロゴを入れることで、商品の統一感が生まれ、ブランドの力を実感させることができた。さらに今年度もカーボン・オフセットを実施し、環境配慮型商品として温室効果ガスゼロの商品を提案し、環境配慮型の商品名の考案を行った。



環境配慮型商品

学校番号	商 0 9		
学校名	<b>愛知県立東海商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	黒瀬 喜人
学校情報	所在地：愛知県東海市大田町曾根 1 番地 TEL：0562-32-5158、FAX：0562-33-7531、URL：http://www.tokai-ch.aichi-c.ed.jp		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 <b>c) 課題解決</b> (創造性開発・課題研究・商品開発等) <b>d) 地域との連携活動</b> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 b) 意匠 <b>c) 商標</b> d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>オリジナルキャラクターを利用し、知的財産権を学習する</b>
目的・目標 ・背景	(目的・目標) オリジナルキャラクター「まちづくり応援大使」の5つのキャラクターを活用した商品開発を通し、知的財産権を学ぶ。キャラクター(とまていーぬ)の2体目の着ぐるみ化。 ----- (取組の背景) 本校の課題研究から誕生した、5つのキャラクターをいかにして活用するかという背景があった。
活動の経過 (知財との関連)	【4月】とまていーぬ着ぐるみ化 ・「とまていーぬ」の着ぐるみが完成。生徒集会で生徒にお披露目を実施した。 【5月】アンティークにおける商品開発 ・地元有名パン屋と共同で、新商品の開発を行った。 【7月】弁理士 外部講師 知的財産権の授業 ・弁理士を招聘し、商標登録について具体的な事例を基に講義やグループワークを行った。 【11月】東海秋祭り 物品販売 ・東日本大震災被災地の釜石から商品を仕入れ、2日間にわたり物品販売を実施した。 【12月】外部講師 知的財産権の授業 ・クロックスによる知的財産権授業を実施した。 ・ルイヴィトンによる知的財産権授業を実施した。 【1月】財務省名古屋税関中部国際空港 知的財産権関係見学 ・知的財産権のまとめとして中部国際空港にある税関の見学会を実施した。 【1月】東海フラワーショウ2015 物品販売 ・地元商工会議所と協力して、東海商業高校の取り組み発表や物品販売を実施した。 【2月(予定)】課題研究発表会
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業は本校では2年目の実施となった。昨年度同様、各方面からの協力を得ることができ、生徒にとって様々な経験をすることができたと思われる。今年度は課題研究17名での実施ではあったが、次年度以降の「商品開発」の授業での取り組みができるよう校内での調整が必要である。 本年度は、本校生徒が考案した「まちづくり応援大使」の5つのキャラクターの1つである「とまていーぬ」が2体目の着ぐるみとなり大きな成果がでた。現在、各方面で活躍をしており、認知度がさらに向上したものと思われる。 実習がメインとなったが、次年度以降は座学の要素も大きく取り入れたいと考えている。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



校舎風景



「とまていーぬ」お披露目



「まちづくり応援大使」キャラクター



弁理士による知的財産権授業の様子



ゆるキャラグランプリ活動



東海秋祭り販売実習



ルイ・ヴィトンによる知的財産権授業



東海フラワーショウの販売実習

学校番号	商 1 0		
学校名	<b>兵庫県立神戸商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	熊谷 好紘
学校情報	所在地：兵庫県神戸市垂水区星陵台 4-3-1 TEL：078-707-6464、FAX：078-707-6466、URL：http://www.kobechs.ed.jp/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動	<input type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input type="radio"/> a) 特許・実用	<input type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input type="radio"/> d) 著作権	<input type="radio"/> e) 種苗	<input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>本校開発商品にかかる知的財産権を学ぶ</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標) 知的財産権に関する知識の定着および、知的財産権の活用方法の習得</p> <p>(取組の背景) 本校では、商業教育の一環として「県商生活」という販売実習、また常設実習店舗「アンフィニ」の運営を行っている。数年前より、地元企業と連携しての商品開発に取り組んでおり、商品の開発・ネーミング・パッケージデザインといった知的財産にも関係する知識が必要となっている。これらの活動を通じて、知的財産について興味・関心を持つ生徒の育成に努めたいと考えた。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>○1年生を対象に、知的財産権に関する基礎的知識の定着を図るため、弁理士による知的財産に関する講演会を行った。</p> <p>○3年生の課題研究及び産業調査部で商品の企画書を作成し、神戸製菓専門学校様に協力を依頼して商品のレシピ作り、また神戸風月堂様を始めとする連携企業様への企画商品のプレゼンテーション、商品の試作品作成、パッケージデザインなど商品開発を行った。</p> <p>○弁理士の先生を招き、商標権に関する講演(商標の役割・登録要件について)を行った。商品のネーミングに関する知識を学び、ネーミング技法の習得、ネーミング実践を行った。</p> <p>○2年生「商品開発」、3年生「課題研究」において、ルイ・ヴィトンジャパン知的財産部から講師を招き、商標権・意匠権についての講義を行った。</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>各学年、1年次において知的財産の関する講演会を実施しており、またビジネス基礎の授業でも知的財産に関する学習を行っているため、大まかには知的財産に関するイメージを持っているが、具体的な知識にはつながっていなかった。そのなかで、弁理士に依頼して行った講演会では、生徒が利用している商品や、有名企業のロゴマークを例に挙げて説明して下さった。また、ルイ・ヴィトンからは、正規商品とコピー商品を持ち込んで、実際に生徒がそれらを観て、触れて比較できる機会を作っていた。商品開発を行った際にも感じたが、やはり生徒は実体験に基づくものとそうでないものでは、知的吸収に大きな差があるようである。今年度は校内行事や施設利用の関係で予定していた事業の多くを実施できぬまま終えてしまったが、次年度も本事業に参加させていただけるなら、今年度の反省と収穫点を活かし、より多くの生徒が知的財産権について学ぶ機会を作っていきたい。</p> <p>本校では、まだまだ知的財産学習が定着したとは言い難い状況であり、学校として知的財産教育にどのように取り組むかを考えていく必要があると感じている。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



学校風景



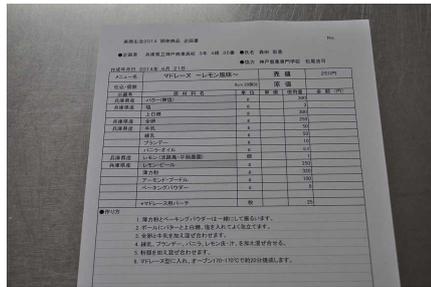
10月末を  
もって閉店

常設店舗 アンフィニ

### 【商品開発】



企画書



神戸製菓専門学校にてレシピおよび試作品作成



神戸風月堂にて商品試作



パッケージデザイン  
も生徒が担当

完成品

### 【講演会】



1年生知的財産講演会



3年課題研究 知財講演「商標権について」



3年課題研究・2年マーケティング 知財講演「ルイ・ヴィトンの知的財産権」



学校番号	商 1 1	平成 26 年度 実践事例報告書様式 4	
学校名	<b>島根県立出雲商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	宇田 聡 高橋 恭子 三島 武徳
学校情報	所在地：島根県出雲市大津町 2 5 2 5 番地 TEL：0853-21-0016、FAX：0853-21-0228、URL：http://uda-satoshi@edu.pref.shimane.jp		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input type="radio"/> a) 特許・実用	<input checked="" type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input type="radio"/> d) 著作権	<input type="radio"/> e) 種苗	<input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>ふるさとデザイン学習を通じた創造力・実践力・活用力の育成について</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標)</p> <p>1) 学校全体 継続的に知財教育を実施できるよう、担当者が代わっても継続できる体制をつくる。</p> <p>2) 課題研究 商業美術 (中心となる科目) 商業科と芸術科とのチームで指導し、企画やデザインを通して、課題把握、解決などの試行錯誤を繰り返すことにより、創造力や実践力を養うとともに、それらの工夫が知的財産権であることを理解させる。</p> <p>-----</p> <p>(取組の背景)</p> <p>商業科と芸術科 (美術) との取り組みは 4 年目、本事業による取り組みとしては 3 年目になる。これまで地域の課題に向き合い、探求型学習をとおして、デザイン志向をみにつけることを目標に活動している。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テーマの模索 ・ 発想法を取り入れた基礎演習 ・ 地域の産業を調べる ・ まとめ</li> <li>○ 地域の産業・技術の体験をともなった学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 斐伊川と出雲風土記、神有月と万九千神社の学習</li> <li>・ 木綿、藍の栽培</li> <li>・ 出雲藍板締め技法と藍染体験 (島根県立出雲古代歴史博物館)</li> <li>・ 森と間伐の学習</li> </ul> </li> <li>○ 木育の学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島根根の森についての特別授業 須山政樹 氏 (須山木材代表取締役社長)</li> <li>・ 森と間伐についての特別授業 野田真幹 氏 (NPO 法人 もりふれ倶楽部理事・事務局長)</li> </ul> </li> <li>○ 想像力・発想力育成のための特別授業 奇二正彦 氏 (生態計画研究所 主任研究員 立教大学講師)</li> <li>○ 発想力、デザイン志向とマーケティングに関する教員研修 奇二正彦 氏 (生態計画研究所 主任研究員 立教大学講師)</li> <li>○ 昨年度から継続した取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出雲木綿の研究</li> <li>・ 木育おもちゃの研究</li> <li>・ 出雲藍板締めの研究</li> </ul> </li> <li>○ 知的財産権に関する学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標準テキストを使用して基本的な内容について学習</li> <li>・ 期末試験を実施</li> </ul> </li> <li>○ 合板 1 枚作品コンペ (夏季休業中)</li> <li>○ テーマ別にわかれて企画・商品開発に取り組む</li> <li>○ 一畑電車出雲大社駅 販売実習・市場調査 (10 月 19 日)</li> <li>○ 販売実習 「出商デパート」 (11 月 29 日 30 日)</li> <li>○ 活動のまとめと発表 (課題研究発表会) (1 月 24 日)</li> <li>○ 木育・おもちゃサポーター養成講座 企画・運営 (1 月 31 日、2 月 1 日)</li> </ul>
成果 ・ まとめ ・ 気づき ・ 反省 ・ 課題	<p>1 年「ビジネス基礎」で、知的財産権・商標権に関する基礎的な内容を学習し、2 年「マーケティング」、3 年「課題研究」につなげていこうにたいと考えている。</p> <p>木育おもちゃのキャラクターについては、権利化の必用を生徒が感じる状況があり、生徒のなかから商標登録したいという意見が出てよかった。主体的に取り組む、創造的な能力や実践的な態度を伸ばしていくには、何を、どのように取り組んでいけばよいか、これからも考え、実践していきたいと考えている。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



テーマの模索



地域学習



一畑電車出雲大社駅 販売実習・市場調査



商品開発

### 生徒の1年間の感想レポート（抜粋）

私たちは1年間、出雲をキーワードとして企画をたてて活動をしてきました。テーマやキーワードを決めるにあたり、出雲についての調べ学習や意見交換、マッピングといった知識を深める機会もたっぷりありました。地元といっても、目を向けようとしなければ、知らないことばかりだと痛感させられました。この思いを、もっとほかの人にも感じてほしいという思いが私の中で芽生えました。

主な活動としては、私たちは出雲の森を活かした木育の向け、2つの企画をたてました。しかし、企画をたてるにあたり、私たちは森についての知識が不足していました。そのため、様々な分野で森に携わっておられる専門の方々に講演会をしていただき、森について1から勉強を始めました。人の手入れが行き届かない森が増えたこと、森を健康に保つには伐採も大切だということ、自然のふれあいは子どもたちにとっても大切だということなど、沢山のことを教えていただきました。そこから、まず手始めに、全年度の先輩方が進めておられた「もりっころ」の商品化や、合板をつかったデザインの学習からすることにしました。「もりっころ」は、自分たちでデザインを考え、ついには販売にこぎつけることができました。今は商標権の取得に向け改良を行っています。木育おもちゃ「もりっころ」は販売に至り大きな前進をしました。市場調査をした結果からみても、今後も続けていくべき企画です。（以下省略）

学校番号	商 1 2		
学校名	<b>岡山県立津山商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	片岡 和昌
学校情報	所在地：岡山県津山市山北 5 3 1 TEL：0868-22-2421、FAX：0868-23-8492、URL：http://www.tusho.okayama-c.ac.jp		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 <b>(c)</b> 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) <b>(d)</b> 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
関連法 (○印)	a) 特許・実用 <b>(b)</b> 意匠 <b>(c)</b> 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>地域をデザインする</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標) 標準テキスト総合編を活用し、商業高校の専門性を活かして地域や企業と連携し、「地域をデザインする」をテーマに、知的財産権を学ぶ研究活動を実施し、事業を校外への発展型とする。デザインを中心とした産業財産権についての理解を深め、商業デザインの創造力と産業財産権を守るための実践力を指導する。</p> <p>(取組の背景) 地域と連携して、商品開発から地域ブランド戦略など、地域を元気にする企画をする。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>1) 企業とタイアップした新製品の開発 商品開発に関する知識を修得し実践能力を身につけるため、企業に商品化・販売していただける商品づくりを目標に、「弁当・惣菜・スイーツ」のテーマから選び、自ら考案してきたアイデアを具現化する。</p> <p>2) チャレンジ！商店街ポスターデザイン 商店街と連携して意匠制度に関する実務能力の修得を目指すため、商店街のポスターを制作し、商店街中心部にある展示スペースで飾り、各店舗に掲示した。</p> <p>3) 津山の文化遺産、産業遺産を受け継ぐための手段としてのPR商品を考案した。</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>成 果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商品開発に取り組んだ成果としてとして発売に向け改良の検討が進むことになり、生徒のアイデアが認められた。</li> <li>商店街にポスターを掲示するとともに、広く公開して生徒のスキル向上や学習意欲の喚起を引出した。</li> <li>企業へのプレゼンの大切さに気づき、商品化の難しさ、考え、工夫する大切さを学んだ。</li> </ul> <p>課 題</p> <p>地域の諸団体と連携し事業を進めてきたが、これらの事業の関連性を成果として共有化を図っていくべきだった。また、知財教育をとおして、地域と連携し、本校から地域を元気にしていける企画を提案できるよう、今後も新たな学習環境の創造を考えていきたい。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

□企業とタイアップした新製品の開発



津山の特産物を利用した商品の提案



試行錯誤しながら作成しています



□商店街ポスターデザイン



商店街の中心部  
でポスター展を  
開きました。  
12/12~12/15  
各商店の店頭に掲  
示しています。  
12/1~1/9

学校番号	商 1 3		
学校名	<b>瓊浦高等学校</b>	担当教員/ 教官名	阿部 泰宣
学校情報	所在地：長崎県長崎市伊良林 2 - 1 3 - 4 TEL : 095-826-1261 FAX : 095-825-5245 URL : http://www.keiho.ed.jp		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用	<input type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input type="radio"/> d) 地域との連携活動	<input type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input type="radio"/> d) 著作権	<input type="radio"/> e) 種苗	<input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>商品開発等の創造的・実践的活動を通しての知財マインドの醸成</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標) 商品開発等の創造的・実践的活動を通して知的財産に関する基礎的な理解と知財マインド(創造の意欲や創作を大切に作るマインド)を醸成する。</p> <p>(取組の背景) 過去 3 年間本校独自で取り組んできた商品開発において、本校オリジナル商品の完成を目指す。同時に販売実習の実施を目標とし、実践的な体験により生徒の自発的学習態度を引き出すことを心がけ活動を進めてきた。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>(導入) 5 月：昨年度までの商品開発の振り返り。 5 月：知的財産に関する基礎的内容の学習。(「産業財産権標準テキスト総合編」を活用) 6 月：山口大学 陣内秀樹 准教授による特別授業の実施。(アイデア創出法・商品開発等)</p> <p>(展開) 6・7 月：和菓子・洋菓子をテーマにした商品開発。 7 月：職員研修(地域別研究協議会への参加) 8 月：職員、代表生徒研修 (知財人材育成・知財教育実践交流研修会 I N 東海：岐阜県大垣養老高校) 8 月：中間報告会参加 9 月：・アイデアコンテストの実施。 (パテントコンテスト応募へのチャレンジ) ・アイデアコンテスト優秀作品のブラッシュアップ。 ・パテントコンテスト応募へ向けての試作品製作。応募作品のブラッシュアップ 10 月：開発商品(和菓子・洋菓子)のブラッシュアップ。 11 月：販売実習の計画と実施。</p> <p>(まとめ) 12 月：先進校視察。(指宿市立指宿商業高校) 1 月：今年度の取り組みの総括。 1 月：年次報告会参加。 1・2 月：校内発表会の準備と実施。</p>

## 成果

- ・まとめ
- ・気づき
- ・反省
- ・課題

知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業への取り組み初年度にあたり、手探りでのスタートとなった今年度だったが1年間を振り返り、担当教員にとっても、生徒達にとっても大変有意義な学習活動を展開できたと実感している。過去3年間、本校独自で商品開発に取り組んできたが、今年度開発事業に参加し、全国の先進校との交流を通し、多くの刺激を受けたことで、本校オリジナル商品の完成や、本校初の販売実習を実施することができた。また、初のパテントコンテストへの取り組みにおいて、応募者の中から特許出願支援対象発明に該当する入賞者を出すことができた。これらの実践的な経験から、生徒達は発想の大切さ、自分で考え行動することや周囲の人達と積極的に関わることの重要性を学び取り、自分達の取り組みや学習への自信を深めることができたと確信している。高校卒業後、知財教育を通して学び、身につけたことが次のステージで生かされ、社会を担う貴重な人材となってくれることを期待している。

生徒達の発想の豊かさや、実践的な教育活動の機会を与えることで成長していく生徒の姿は我々教員にとっても多くのことを示唆してくれた。今年度の知的財産教育を通じ、日常の教室の中や、学校生活の中では気付かない生徒の潜在能力と、様々な活動機会の創出が生徒達の可能性の伸展に大きな役割を持つということを感じた一年であった。

今後の課題として、①校内での支援体制の確立、②今年度情報ビジネス科3年を中心に行った知財教育を情報ビジネス科全体(1~3年)への取り組みに広げていくこと、③アイディア創出法等、教員の指導スキルアップが考えられる。

先進校の活動や研修会等を通じ出会った多くの先生方の取り組みを大いに参考にさせていただき、次年度以降の活動をさらに充実させていきたいと考えている。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



(写真1) 6月：特別授業



(写真2) 商品開発：アンケート調査



(写真3) 商品開発：お菓子製造



(写真4) 商品開発：お菓子製造



(写真5) 開発商品：「瓊姫」



(写真6) 開発商品：「原石シュー」



(写真7)  
販売実習  
：ポスター



(写真8)  
販売実習  
：長崎駅前にて

学校番号	商 1 4	平成 26 年度 実践事例報告書様式 4	
学校名	<b>鹿児島県立串良商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	深田 信平
学校情報	所在地：鹿児島県鹿屋市串良町岡崎 2 4 9 6 番地 1 TEL：0994-63-2533、FAX：0994-63-2534、URL：http://www.minc.ne.jp/kushirashoko/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性   b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動 <input checked="" type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)   f) 学校組織・運営体制
	a) 特許・実用   b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 <input checked="" type="radio"/> d) 著作権   e) 種苗   f) その他 (   )

タイトル 目的・目標要約	<b>商品開発を通じた知的財産権の学習と産業人材の育成</b>
目的・目標・背景	<p>(目的・目標) 「知的財産権についての理解とアイデア創出による知的財産権への具現化による人材育成」 まずは、全校生徒が知的財産権について知ることを第一の目標とする。そして、アイデアを創出することや商品開発を通して、商標権の重要性などを理解し、より実社会に近い形での商品開発を行う。</p> <p>(取組の背景) 昨年から本校でも商品開発に取り組んでいるが、商標権などについては詳しく学習を行っていなかったのが実情である。今後、商品開発を更に進めていく中で(商品開発から得られる学習効果・地域活性化)、知財教育は必要不可欠なものであり、教師・生徒も知的財産に関する知識が必要なことと機会を設けることが必要と感じたため。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>&lt; 活動経過 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 全校生徒・職員に対する意識づけ(研修会の実施・全体での説明会実施)</li> <li>② 知的財産権合同 LHR や地域別研修会、先進校視察を実施</li> <li>③ 知的財産(商標権・著作権)講演会実施</li> <li>④ 知的財産権に関する授業実施(課題研究 25 名)(ビジネス基礎 127 名)等</li> <li>⑤ 中学生体験入学等での紙タワー実施・知的財産権に関する授業実施</li> <li>⑥ 地元企業と連携した商品開発</li> <li>⑦ デザイン販売戦略セミナーへの参加</li> <li>⑧ 試作品のアンケート・知財関連のアンケート実施</li> <li>⑨ メディア出演(新聞・ラジオ)</li> </ol>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>&lt; 活動の成果 &gt;</p> <p>知的財産に関する取り組み一年目となる本校では、当初の目的・目標をすべて達成できたとは言えないが、職員や生徒の知的財産に関する意識、認知度は高まった。このような機会を設けることが知的財産教育の推進につながると考える。商品開発を通して知的財産権について学ぶことで、コミュニケーション力・向学心・そして知的財産に関する知識が身に付き、視野を広げることに繋がった。生徒からも将来は商標登録をしていきたいという意見も多数ありこれからの取組が重要であると感じた。これからも職員の研修の場を設け、生徒に還元していきたい。</p> <p>商品開発にあたって初めて商標検索を行った。(IPDL 検索)生徒も積極的に様々な商品名などを検索していたが、職員も初めてのことであったのでよい機会となった。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<試作品製造・試食風景>



<知財に関する講演会・説明会実施>



日本って資源エネルギーが少ない…  
だから日本にとっては「知恵を創造 知的財産こそが財産」

そこで  
今年の串良商業の取り組み…

昨年の、

- SUMOMOさんとのコラボ商品(パン)
- キャラクターの考案

の経験を活かして、全校生徒で…

- ① アイデアをだして、商品開発
- ② 商品やキャラクターを世の中にデビューさせるための学習や商品を守るための権利(知的財産権)を学ぶ

↓

権利？知的財産権？

<知財に関する授業>



<実際の商品> 昨年 → 今年の試作品 → 今年の完成品



<知財教育の取組について>

① ペーパータワーやエッグドロップ

教科商業の科目「課題研究」や「ビジネス基礎」で取り組んだ。グループでアイデアを考察・検討・実践することで創造力・実践力が身につく、効果的に知的財産教育につなげることができた。中学生体験入学等でも実施し、本校に対するイメージの払しょくと商標権や著作権の関連を効果的に学習できた。今後は更に教員研修を増し、知財教育への意識を高め中学生体験入学や出前授業等にも積極的に取り組んでいきたいと思う。

② 事前の説明会実施

講演会などの開催以外に全体に向けた説明会の実施が効果的だった。来年度は、知財に関する新聞などを発行したい。



「串商タルト」開発

高校生がアイデア

学校番号	商 1 5		
学校名	<b>出水市立出水商業高等学校</b>	担当教員/ 教官名	水間 悦郎
学校情報	所在地：鹿児島県出水市明神町 2 0 0 TEL：0996-67-1069、FAX：0996-67-4345、URL：http://www12.synapse.ne.jp/izumisyo/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性	<input type="radio"/> b) 法制度・出願	<input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動	<input type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)	<input type="radio"/> f) 学校組織・運営体制
	<input type="radio"/> a) 特許・実用	<input type="radio"/> b) 意匠	<input checked="" type="radio"/> c) 商標
	<input type="radio"/> d) 著作権	<input type="radio"/> e) 種苗	<input type="radio"/> f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>知的財産権の基礎を理解する</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標) 昨年度に引き続き商業科 1 年生全体で知的財産教育に取り組む。学年進行で知的財産教育を進める。1 年生では基礎を見に付けることに重点を置く。</p> <p>(取組の背景) 新学習指導要領による新課程で商業科は商品の企画・開発・広告を学年進行で学習することになり、継続的に知的財産教育を導入することができるようになった。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業「知的財産の基礎」・「意匠権」「商標権」の学習 標準テキストを用い「知的財産の基礎」・「意匠権」「商標権」についての授業を実施</li> <li>・隼人工業高等学校知的財産教育合同 LHR 視察 先進的な取組を行っている学校の取組の状況を視察</li> <li>・新商品開発 地元の特産物を生かした「かぼちゃ肉まん」の試作と地元キャラクター「わらびなちゃん」の制作と地元スポーツ大会の企画・運営</li> <li>・鹿児島県高等学校生徒商業研究発表大会出場 生徒商業研究発表大会において「課題研究」の取組を発表</li> <li>・「タワー作り」に挑戦 発想法の習得の一環として「マーケティング」において「タワー作り」を体験</li> <li>・出水商業デパートにおける広告の在り方と商品の販売 著作権・商標権を侵害しない広告作りの在り方と商品の販売</li> <li>・市来農芸高等学校知的財産教育講演会 知的財産の意義や先進的な取組を行っている企業の取組状況を聴く</li> <li>・課題研究発表会 「課題研究」の 1 年間の活動を 1・2 年生に発表</li> <li>・報告書の作成 1 年間の活動報告書を作成</li> </ul>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	<p>3 年目の参加で、前年度の取組を継続的に取り組むことができた。しかし、鹿児島県内の推進校に比べるとまだまだ取組内容が充実しているとは言えないので、来年度はさらに内容を充実させたい。</p> <p>開発商品「かぼちゃ肉まん」を作る過程で、商標について IPDL で検索を行うなど教諭が研修で学んだ内容を生徒に還元できたことなどは本事業に参加した成果であると思う</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



写真1 合同LHR視察



写真2 新商品の試作風景



写真3 地元キャラクター（「わらびなちゃん」）



写真4 新商品の試作（「かぼちゃ肉まん」）



写真5 地元スポーツ大会の様子

過疎傾向にある蕨島地区（コミュニティー）を盛り上げよう！と発想法（「ブレインストーミング」等）を活用しアイデアを練ることになった。そのアイデアの一つとして、地元小学校や自治会とワークショップなどを重ね連携を深める。その結果として、小学生が発案した原画を高校生がキャラクター化（写真3）や蕨島スポーツ大会（写真5）開催に至った。

学校番号	商 1 6		
学校名	<b>鹿児島県立明桜館高等学校</b>	担当教員/ 教官名	九田 泰好
学校情報	所在地：〒891-1105 鹿児島県鹿児島郡山町 100 番地 TEL：099-298-4124, FAX：099-298-4125, URL：http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Meiokan/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性   b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用 <input checked="" type="radio"/> b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標 <input checked="" type="radio"/> d) 著作権   e) 種苗   f) その他 (   )

タイトル 目的・目標要約	<b>「知財人材育成（知的財産学習）推進の工夫と今後の展望について」</b>
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標)</p> <p>知的財産権の理解と知識を段階的に深めさせることを目的とする。その手段として、産業財産権標準テキスト等の活用や地元にある魅力的な素材やネットワークを活用し、鹿児島県や本校が所在する地域のイメージアップ活動を実践するとともに高校生の視点から創造・活用・発信できる能力の育成を図る。</p> <hr/> <p>(取組の背景)</p> <p>① 校内の知的財産権への普及・理解を促し、併せて知的財産権に対するモラルやマインドを育てる取組</p> <p>② 科目「課題研究」を中心に各科目における実施内容・指導方法等の取組を通じた問題解決などから創造力や実践力育成の取組</p> <p>③ 将来社会人としての実践的な活用力を育てる視点からの取組</p> <p>④ 外部講師（企業・大学・知財専門家等）による支援や指導事例による取組</p> <p>⑤ 地域や企業との連携や活動、その活動を通じた知財や専門学科の分野の実務体験、他校との連携</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>本校は課題研究調査研究班(名称:チャレンジ明桜館事務局!)の活動を通し、知的財産教育に取り組んでいる。学校 PR と地域活性化を目標とし、地元商工会・こいやま八重の会(地域おこし団体)と連携し活動を展開している。</p> <p>【平成 24 年度】</p> <p>地元の印刷業者の協力を得て、印刷物やパッケージを題材に効果的な広告媒体と知的財産権について学ぶ。結果、学校 PR クリアファイルが完成し、学校説明会や体験入学などで配布し好評を得ている。</p> <p>【平成 25 年度】</p> <p>本格的に地域行事へ参加し始める。地元ゆるキャラ「天ガラもん」を題材にした商品開発と販売、地域応援ソング「みんな大好きこいやま」作詞、地元アイドル「おじゃこい隊」結成、地域観光マップ作成に携わった。</p> <p>【平成 26 年度】</p> <p>地域イベントにおける企画・受付・販売・ガイドの役割と併せて参加賞としてのノベルティー作成から知的財産権（意匠権・商標権）を学んだ。</p> <p>また、地元企業による商品開発に関する研修会を通して、今後地域イベントで活用していきたい地域活性化商品の試作品を作成した。</p>

	<p>【知的財産に関する講座】          LVJグループ株式会社ルイヴィトンジャパン（平成25年度）          アンダーアーマー日本総代理店 株式会社ドーム（平成26年度）</p>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ</li> <li>・気づき</li> <li>・反省</li> <li>・課題</li> </ul>	<p>これまでの活動を通して、生徒達にも徐々に知的財産に対する意識が芽生えつつある。今後も学校PRと地域活性化を目標として活動を展開していくなかで、さらに知的財産教育について学びを深めさせたい。そして、最終的には地域から喜ばれる地域財産の創造まで到達できたらと考えている。本校と同様、地域おこしをテーマとして知的財産教育を展開している他校の活動もこの事業を通して、参考にしていきたい。</p> <p>さらに、この活動で得た知的財産権教育の成果は、地域行事を通して地域へ還元するように心掛けている。</p> <p>また、この2年連続知的財産教育に関する講座を商業科の生徒へ実施している。この講座は大変意義深いと感じているので、継続的に計画・実践していきたい。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



【校舎風景】



【文化祭での販売(商品開発したカップケーキ)】



【地域活性化イベントの参加賞】



【鹿児島県生徒商業研究発表大会】



【株式会社ドーム知的財産教育講座】



【オリジナル商品製作活動風景】



【チャレンジ明桜館事務局！ イメージ図 生徒制作】

学校番号	商 1 7		
学校名	<b>霧島市立国分中央高等学校</b>	担当教員/ 教官名	島田 聡吾
学校情報	所在地：鹿児島県霧島市国分中央 1 丁目 10 番 1 号 TEL：0995-46-1535、FAX：0995-46-1536、URL：http://www.mct.ne.jp/users/kokubu-chuo/		

ねらい (○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性   b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	<input checked="" type="radio"/> d) 地域との連携活動 <input checked="" type="radio"/> e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等)   f) 学校組織・運営体制
	a) 特許・実用   b) 意匠 <input checked="" type="radio"/> c) 商標   d) 著作権   e) 種苗   f) その他 ( )

タイトル 目的・目標要約	<b>地域活性化に向けたチャレンジショップの運営を通して知的財産権を理解する。</b>
目的・目標・背景	(目的・目標) 知的財産教育を通して地域を活性化する。 (取組の背景) 産業財産テキストを活用する中で、必要な知的財産権を理解し、学校・学科の特徴を活かした人材を育成する。また、地域との連携も視野に入れた商品開発を行う。
活動の経過 (知財との関連)	<p>【4月】知的財産教育推進委員会、学科(ビジネス情報科)で昨年度までの流れの確認と今年度の実施計画の検討 チャレンジショップオリエンテーション(意義と手順の確認)</p> <p>【5月】実施計画(商品開発・販売実習・ITショップ運営)についての検討・具体化 生産者農家研修の実施(商品開発使用の材料の生産者による)</p> <p>【6月】販売実習、おもてなし実習スタート 「知的財産教育LHR」の実施(岐阜県立大垣養老高等学校 教諭 中野輝良 先生 「君たちの将来きっと使えるアイデアをかたちに。知的財産をかたちに。」 本校で知的財産ミニセミナーを開催 鹿児島県生徒商業研究発表大会で取組の成果を発表(優秀賞受賞)</p> <p>【8月】中間報告会への参加</p> <p>【9月】地域連携商品開発の準備等、販売・おもてなし実習(駅・イベント)</p> <p>【10・11月】開発商品の試作、販売・おもてなし実習(駅・イベント・文化祭) 観光・特産品PRのぼり・のれん・台巻きのデザイン</p> <p>【12月】職員研究の実施 全国知財・創造教育研究会 会長 籠原 裕明 先生 「全国における知的財産教育の現状と課題」</p> <p>【1月】年次報告会への参加、生徒による校内研究発表会</p> <p>【2月】販売実習予定(商店街祭り)、次年度に向けた活動総括</p>
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	昨年同様楽天ITショップ運営を通して肖像権商標権を常に意識して取り組むことができた。おもてなし活動ではPRグッズの作成(のぼり、歓迎旗)のキャラクターデザインを通して著作権、商標権、意匠権、などを総合的に学習した。 産学官連携でおもてなし商品の開発を行ない、霧島茶のパッケージデザインや霧島茶を使用した金平糖を考案し商品化された。しかし、スマートフォンのアプリ開発は実施されていない。

# ☆チャレンジショップの活動を通して、知的財産を学ぶ生徒たちの様子

## ① 商品開発について



知的財産教育講演会



生産者農家研修



商品開発の様子

## ②おもてなし



ななつ星列車に乗車された海外からの観光のお客様におもてなし活動。



## ③ I T ショップ



2014年度 カリキュラム一覧(仮)			
実施月	国内販売	海外販売	トラベル版
ゴール設定	チーム目標の達成 (販売の理解・売上・件数)	チーム目標の達成 (販売の理解・売上・件数)	チーム目標の達成 (販売の理解・売上・件数)
6月	ネットショップの基本的なお話 + 商品紹介の軸を知る	ネットショップの基本的なお話 + 商品紹介の軸を知る	ネットショップ、オンライン販売手順の基本的なお話 + 商品紹介の軸を知る (販売・売上・トラベル版)
7月	店舗さんの具体例を知る + マーケティングを考える	店舗さんの具体例を知る + マーケティングを考える	店舗さんの具体例を知る + マーケティングを考える
8月	商品内容を決定する + ページ構成案を考える	商品内容を決定する + ページ構成案を考える	(販売・売上・トラベル版) 商品内容を決定する + ページ構成案を考える
9月	ページ構成案改善	ページ構成案改善	(販売・売上・トラベル版) ページ構成案改善
10月	Webページ公開 + 販売開始	Webページ公開 + 販売開始	(販売・売上・トラベル版) Webページ公開 + 販売開始
11月	確認 + 改善	確認 + 改善	(販売・売上・トラベル版) 確認 + 改善
12月	確認 + 改善	確認 + 改善	(販売・売上・トラベル版) 確認 + 改善
1月	確認 + 改善	確認 + 改善	(販売・売上・トラベル版) 確認 + 改善
1月～2月止	楽天IT学校卒業	楽天IT学校卒業	楽天IT学校卒業(トラベル版)



楽天IT学校で、インターネットサイト運営についての授業を受け、最終的には、企画書やページのデザイン案を完成させ、各班がプレゼンテーションを行い、生徒たちが作ったページが完成し、宿泊プランと焼酎のセットの販売を開始しました。